

平成26年度
第6回市政モニターアンケート

若戸渡船について

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
(1) 若戸渡船の認知度	2
(2) 若戸渡船の利用度	3
(3) 若戸渡船の利用状況	4
(4) 若戸渡船から他の交通機関に変更した理由	5
(5) 洞海湾クルージングの認知度	7
(6) 洞海湾クルージングの利用状況	8
(7) 若戸渡船の経営状況（収支）に関する関心	9
(8) 若戸渡船の交通手段としての役割	10
(9) 若戸渡船の必要性	11
(10) 若戸渡船を存続させるべき理由	12
(11) 若戸渡船を廃止すべき理由	13
(12) 若戸渡船の経営改善のために必要なこと	14
(13) 若戸渡船の集客を図る上で必要なこと	16
(14) 藍島・馬島～小倉間の小倉航路の認知度	18
(15) 若戸渡船に対するご意見・ご要望	19
IV 全体考察	20

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター	149人
回答者数	135人	(回収率 90.6%)
調査実施日	平成26年10月17日～平成26年11月7日	
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査	
調査実施課	市民文化スポーツ局広聴課	TEL 582-2527
調査依頼課	産業経済局渡船事業所	TEL 861-0961

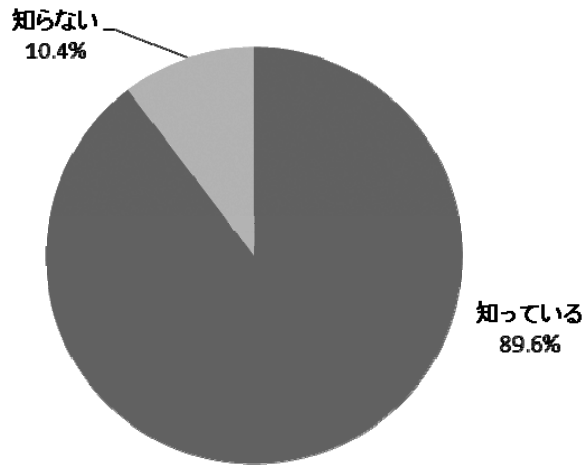
II 市政モニターの構成

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	149 (100.0%)	49 (32.9%)	100 (67.1%)	区別			
				門司区	10 (6.7%)	3 (2.0%)	7 (4.7%)
20歳代	9 (6.0%)	5 (3.4%)	4 (2.7%)	小倉北区	19 (12.8%)	8 (5.4%)	11 (7.4%)
30歳代	37 (24.8%)	4 (2.7%)	33 (22.1%)	小倉南区	24 (16.1%)	4 (2.7%)	20 (13.4%)
40歳代	29 (19.5%)	11 (7.4%)	18 (12.1%)	若松区	19 (12.8%)	6 (4.0%)	13 (8.7%)
50歳代	19 (12.8%)	1 (0.7%)	18 (12.1%)	八幡東区	19 (12.8%)	7 (4.7%)	12 (8.1%)
60歳代	33 (22.1%)	16 (10.7%)	17 (11.4%)	八幡西区	48 (32.2%)	17 (11.4%)	31 (20.8%)
70歳以上	22 (14.8%)	12 (8.1%)	10 (6.7%)	戸畑区	10 (6.7%)	4 (2.7%)	6 (4.0%)

※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

問1 あなたは、若戸渡船をご存知ですか。

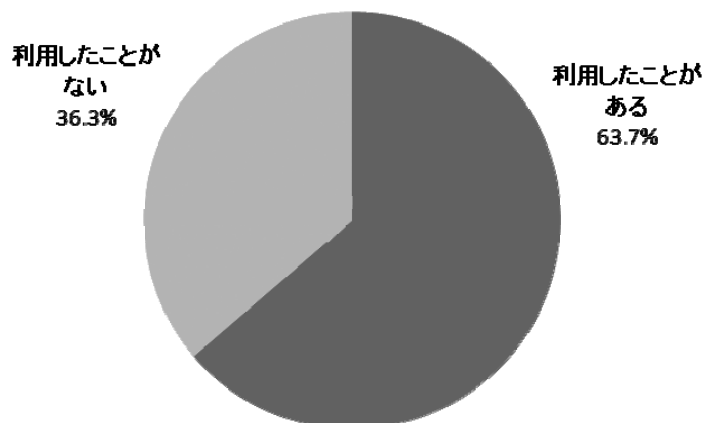


		回答者数	知っている	知らない
全体		135 人	89.6%	10.4%
性別	男性	44 人	97.7%	2.3%
	女性	91 人	85.7%	14.3%
年齢別	20歳代	7 人	85.7%	14.3%
	30歳代	34 人	70.6%	29.4%
	40歳代	26 人	100.0%	0.0%
	50歳代	19 人	89.5%	10.5%
	60歳代	30 人	100.0%	0.0%
	70歳以上	19 人	94.7%	5.3%
区別	門司区	9 人	77.8%	22.2%
	小倉北区	17 人	82.4%	17.6%
	小倉南区	20 人	75.0%	25.0%
	若松区	18 人	94.4%	5.6%
	八幡東区	16 人	100.0%	0.0%
	八幡西区	46 人	93.5%	6.5%
	戸畑区	9 人	100.0%	0.0%

「知っている」と答えた方は、89.6%であり、高い認知度を示している。

年齢別では、20歳代、30歳代の若い層、区別では、門司区、小倉北区、小倉南区の市の東部地域で認知度がやや低い。

問2 あなたは、これまで若戸渡船を利用されたことがありますか。



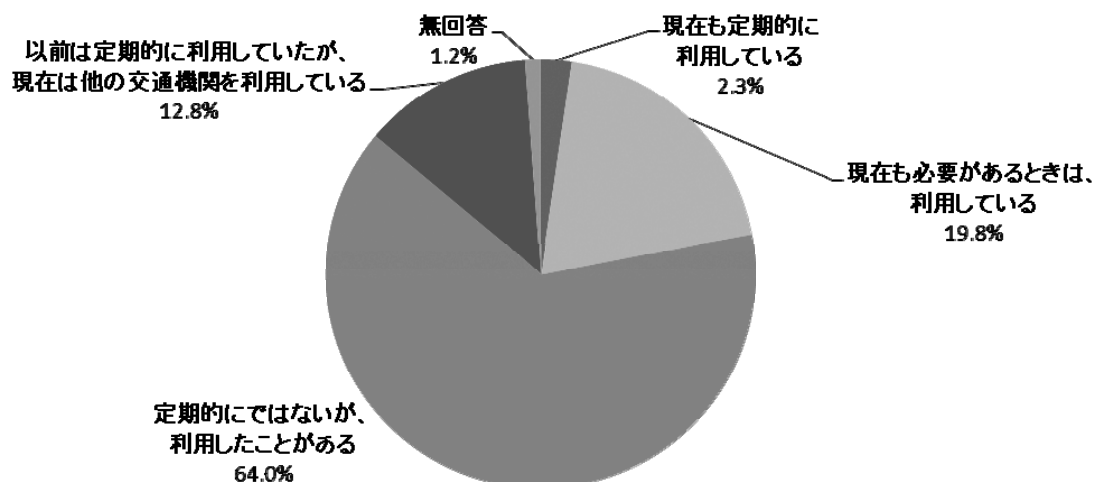
		回 答 者 数	利用したこ とがある	利用したこ とがない
全 体		135 人	63.7%	36.3%
性 別	男 性	44 人	68.2%	31.8%
	女 性	91 人	61.5%	38.5%
年 齢 別	20歳代	7 人	57.1%	42.9%
	30歳代	34 人	38.2%	61.8%
	40歳代	26 人	61.5%	38.5%
	50歳代	19 人	73.7%	26.3%
	60歳代	30 人	76.7%	23.3%
	70歳以上	19 人	84.2%	15.8%
区 別	門司区	9 人	44.4%	55.6%
	小倉北区	17 人	64.7%	35.3%
	小倉南区	20 人	45.0%	55.0%
	若松区	18 人	83.3%	16.7%
	八幡東区	16 人	68.8%	31.3%
	八幡西区	46 人	58.7%	41.3%
	戸畑区	9 人	100.0%	0.0%

「利用したことがある」と答えた方は、63.7%であった。

年齢別では、50歳代、60歳代、70歳以上の層が、やや利用度が高く、区別では、若松区、戸畑区の利用度が特に高くなっている。

<問2で「1 利用したことがある。」とお答えいただいた方にお尋ねします。>

問3 利用の状況について、お聞かせください。

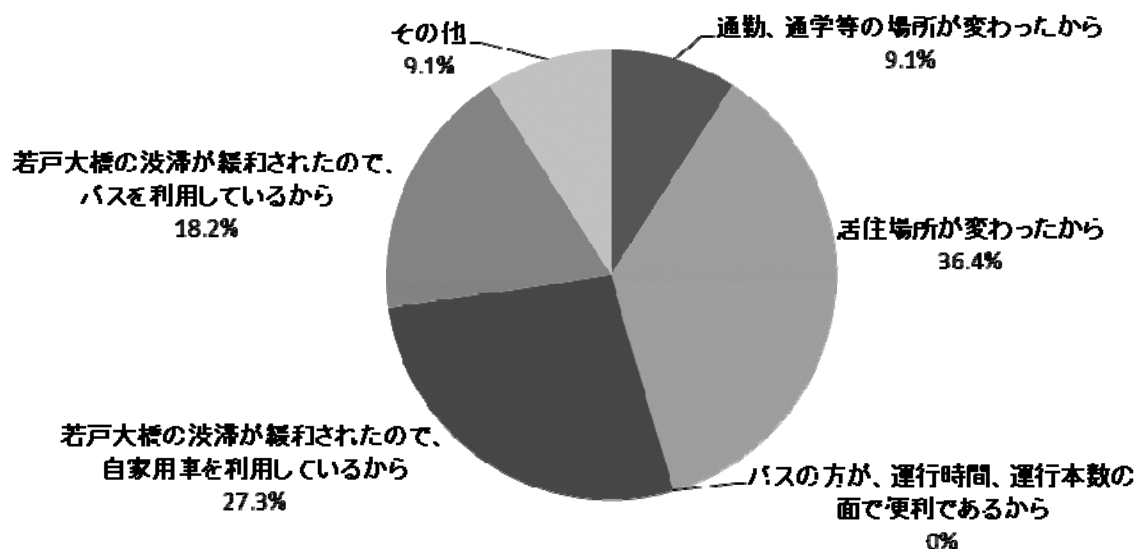


		回答者数	現在も定期的に利用している	現在も必要があるときは、利用している	定期的にはないが、利用したことがある	以前は定期的に利用していたが、現在は他の交通機関を利用している	無回答
全体		86人	2.3%	19.8%	64.0%	12.8%	1.2%
性別	男性	30人	3.3%	20.0%	63.3%	10.0%	3.3%
	女性	56人	1.8%	19.6%	64.3%	14.3%	0.0%
年齢別	20歳代	4人	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	13人	0.0%	0.0%	92.3%	7.7%	0.0%
	40歳代	16人	0.0%	12.5%	68.8%	18.8%	0.0%
	50歳代	14人	7.1%	7.1%	85.7%	0.0%	0.0%
	60歳代	23人	0.0%	34.8%	52.2%	8.7%	4.3%
	70歳以上	16人	0.0%	31.3%	43.8%	25.0%	0.0%
区別	門司区	4人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	11人	0.0%	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%
	小倉南区	9人	0.0%	0.0%	88.9%	0.0%	11.1%
	若松区	15人	13.3%	13.3%	33.3%	40.0%	0.0%
	八幡東区	11人	0.0%	27.3%	54.5%	18.2%	0.0%
	八幡西区	27人	0.0%	18.5%	70.4%	11.1%	0.0%
	戸畑区	9人	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%

「定期的にはないが、利用したことがある」と答えた方が64.0%と、不定期、一時的な利用の方が大きな割合を占めている。また、「現在も定期的に利用している」方と「現在も必要あるときは利用している」方が合わせて22.1%に対し、「以前は定期的に利用していたが、現在は他の交通機関を利用している」方が12.8%となっている。

<問3で「4 以前は定期的にご利用していたが、現在は他の交通機関を利用している。」とお答えいただいた方にお尋ねします。>

問4 別の交通機関に変更された理由は何ですか。



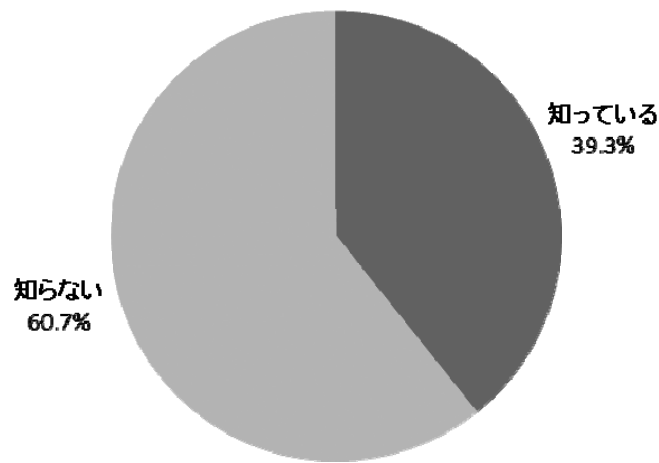
		回答者数	通勤、通学等の場所が変わったから	居住場所が変わったから	バスの方が、運行時間、運行本数の面で便利であるから	若戸大橋の渋滞が緩和されたので、自家用車を利用しているから	若戸大橋の渋滞が緩和されたので、バスを利用しているから	その他
全体		11人	9.1%	36.4%	0.0%	27.3%	18.2%	9.1%
性別	男性	3人	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	女性	8人	0.0%	37.5%	0.0%	25.0%	25.0%	12.5%
年齢別	20歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	3人	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%
	50歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	2人	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	4人	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
区別	門司区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	6人	16.7%	16.7%	0.0%	33.3%	16.7%	16.7%
	八幡東区	2人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	3人	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	戸畑区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「通勤、通学等の場所」または「居住場所」が変わったからと答えた方が合わせて 45.5%であった。

一方、「若戸大橋の渋滞が緩和されたので、自家用車を利用しているから」と答えた方が 27.3%、「若戸大橋の渋滞が緩和されたので、バスを利用しているから」と答えた方が 18.2%であった。したがって、若戸渡船を「利用したことがある」と答えた方 86 名のうち、3.5% (3 人) の方が自家用車に変更され、2.3% (2 人) の方がバスに変更された。

「バスの方が運行時間、運航本数の面で便利であるから」と答えた方は、いなかった。

問5 あなたは、若戸渡船の船を使用して洞海湾クルージングを運航していることをご存知ですか。

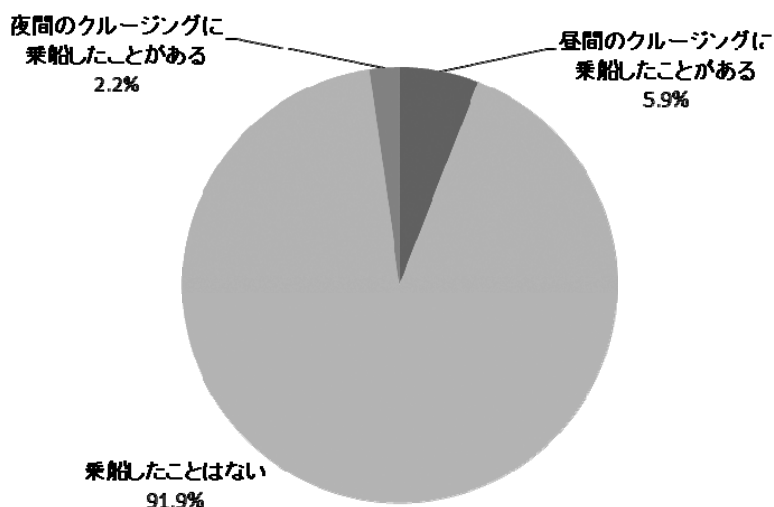


		回答者数	知っている	知らない
全体		135 人	39.3%	60.7%
性別	男性	44 人	52.3%	47.7%
	女性	91 人	33.0%	67.0%
年齢別	20歳代	7 人	42.9%	57.1%
	30歳代	34 人	14.7%	85.3%
	40歳代	26 人	34.6%	65.4%
	50歳代	19 人	47.4%	52.6%
	60歳代	30 人	53.3%	46.7%
	70歳以上	19 人	57.9%	42.1%
区別	門司区	9 人	11.1%	88.9%
	小倉北区	17 人	17.6%	82.4%
	小倉南区	20 人	15.0%	85.0%
	若松区	18 人	83.3%	16.7%
	八幡東区	16 人	43.8%	56.3%
	八幡西区	46 人	43.5%	56.5%
	戸畑区	9 人	44.4%	55.6%

「知らない」と答えた方が、60.7%であった。

年齢別では30歳代、区別では門司区、小倉北区、小倉南区の市の東部地域で認知度がかなり低い。

問6 あなたは、若戸渡船の洞海湾クルージングに乗船されたことがありますか。



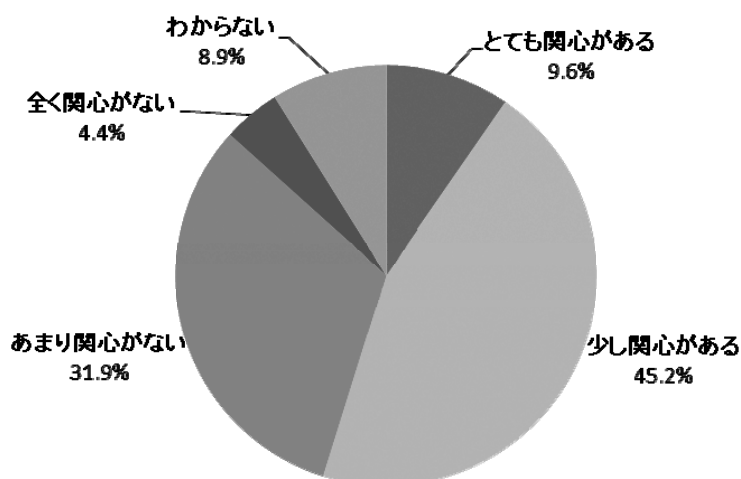
		回答者数	昼間のクルージングに乗船したことがある	夜間のクルージングに乗船したことがある	乗船したことはない
全体		135人	5.9%	2.2%	91.9%
性別	男性	44人	4.5%	2.3%	93.2%
	女性	91人	6.6%	2.2%	91.2%
年齢別	20歳代	7人	0.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	34人	2.9%	0.0%	97.1%
	40歳代	26人	3.8%	3.8%	92.3%
	50歳代	19人	15.8%	0.0%	84.2%
	60歳代	30人	6.7%	6.7%	86.7%
	70歳以上	19人	5.3%	0.0%	94.7%
区別	門司区	9人	0.0%	0.0%	100.0%
	小倉北区	17人	0.0%	0.0%	100.0%
	小倉南区	20人	0.0%	0.0%	100.0%
	若松区	18人	22.2%	0.0%	77.8%
	八幡東区	16人	6.3%	6.3%	87.5%
	八幡西区	46人	6.5%	2.2%	91.3%
	戸畑区	9人	0.0%	11.1%	88.9%

「乗船したことはない」と答えた方が91.9%と大半を占めた。

「昼間」と「夜間」では、昼間のクルージングに乗船したことがあると答えた方が多かった。

門司区、小倉北区、小倉南区では、乗船したことがあると答えた方は、いなかった。

問7 あなたは、若戸渡船の経営状況（収支）について関心がありますか。

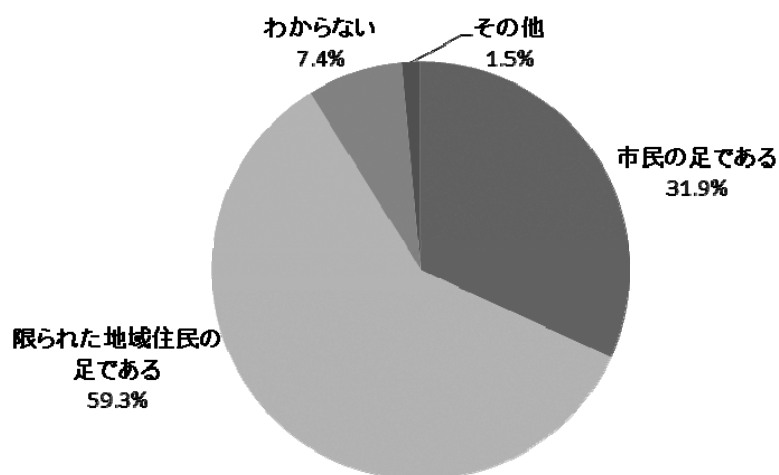


		回答者数	とても関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	わからない
全体		135 人	9.6%	45.2%	31.9%	4.4%	8.9%
性別	男性	44 人	9.1%	45.5%	34.1%	6.8%	4.5%
	女性	91 人	9.9%	45.1%	30.8%	3.3%	11.0%
年齢別	20歳代	7 人	0.0%	28.6%	42.9%	0.0%	28.6%
	30歳代	34 人	5.9%	44.1%	32.4%	11.8%	5.9%
	40歳代	26 人	3.8%	42.3%	38.5%	3.8%	11.5%
	50歳代	19 人	26.3%	42.1%	26.3%	0.0%	5.3%
	60歳代	30 人	6.7%	53.3%	33.3%	0.0%	6.7%
	70歳以上	19 人	15.8%	47.4%	21.1%	5.3%	10.5%
区別	門司区	9 人	11.1%	44.4%	44.4%	0.0%	0.0%
	小倉北区	17 人	11.8%	35.3%	29.4%	5.9%	17.6%
	小倉南区	20 人	10.0%	35.0%	30.0%	5.0%	20.0%
	若松区	18 人	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	16 人	12.5%	50.0%	31.3%	6.3%	0.0%
	八幡西区	46 人	2.2%	54.3%	26.1%	6.5%	10.9%
	戸畑区	9 人	22.2%	55.6%	22.2%	0.0%	0.0%

「とても関心がある」と答えた方（9.6%）と「少し関心がある」と答えた方（45.2%）を合わせると54.8%となっている。

「あまり関心がない」と答えた方は、若松区で50.0%と最も高くなっている。

問8 若戸渡船が交通手段として果たしている役割について、どうお考えですか。

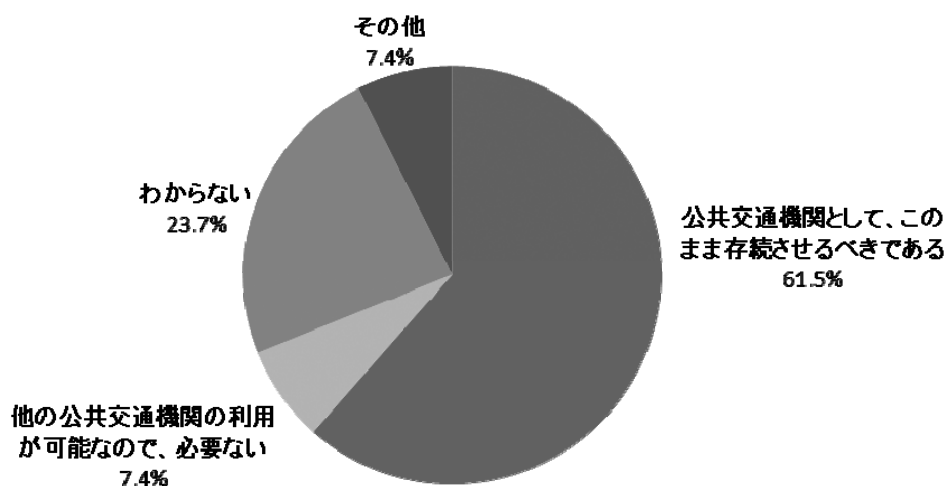


		回答者数	市民の足である	限られた地域住民の足である	わからない	その他
全体		135人	31.9%	59.3%	7.4%	1.5%
性別	男性	44人	38.6%	54.5%	6.8%	0.0%
	女性	91人	28.6%	61.5%	7.7%	2.2%
年齢別	20歳代	7人	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%
	30歳代	34人	20.6%	61.8%	17.6%	0.0%
	40歳代	26人	34.6%	65.4%	0.0%	0.0%
	50歳代	19人	52.6%	36.8%	5.3%	5.3%
	60歳代	30人	33.3%	56.7%	6.7%	3.3%
	70歳以上	19人	15.8%	84.2%	0.0%	0.0%
区別	門司区	9人	11.1%	77.8%	11.1%	0.0%
	小倉北区	17人	23.5%	76.5%	0.0%	0.0%
	小倉南区	20人	20.0%	55.0%	20.0%	5.0%
	若松区	18人	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	16人	50.0%	43.8%	0.0%	6.3%
	八幡西区	46人	28.3%	60.9%	10.9%	0.0%
	戸畑区	9人	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%

「市民の足である」と答えた方が 31.9%であるのに対し、「限られた地域住民の足である」と答えた方が 59.3%と2倍近くとなっている。

区別では、門司区、小倉北区で、「限られた地域住民の足である」と答えた方が特に多い。

問9 若戸渡船の必要性について、どうお考えですか。



		回答者数	公共交通機関として、このまま存続させるべきである	他の公共交通機関の利用が可能なので、必要ない	わからない	その他
全体		135人	61.5%	7.4%	23.7%	7.4%
性別	男性	44人	68.2%	11.4%	9.1%	11.4%
	女性	91人	58.2%	5.5%	30.8%	5.5%
年齢別	20歳代	7人	71.4%	0.0%	28.6%	0.0%
	30歳代	34人	47.1%	2.9%	47.1%	2.9%
	40歳代	26人	65.4%	7.7%	19.2%	7.7%
	50歳代	19人	63.2%	5.3%	31.6%	0.0%
	60歳代	30人	60.0%	13.3%	6.7%	20.0%
	70歳以上	19人	78.9%	10.5%	5.3%	5.3%
区別	門司区	9人	44.4%	22.2%	33.3%	0.0%
	小倉北区	17人	58.8%	11.8%	23.5%	5.9%
	小倉南区	20人	25.0%	10.0%	55.0%	10.0%
	若松区	18人	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%
	八幡東区	16人	81.3%	0.0%	6.3%	12.5%
	八幡西区	46人	63.0%	6.5%	21.7%	8.7%
	戸畑区	9人	77.8%	11.1%	0.0%	11.1%

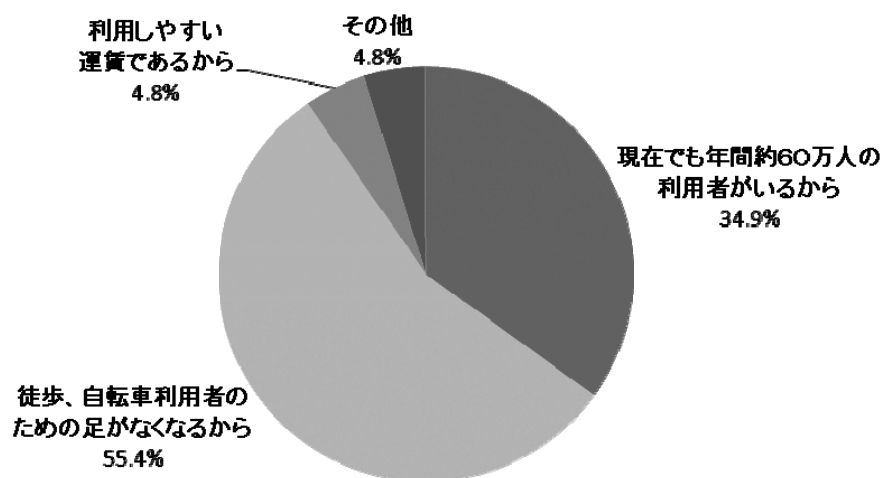
「公共交通機関として、このまま存続させるべきである」と答えた方が61.5%と最も多く、「他の公共交通機関の利用が可能なので、必要ない」と答えた方は7.4%しかなかった。

また、利用度の低い年齢層、区で、「わからない」と答えた方が多くなっている。

「その他」としては、「観光船として遺すべきである」という趣旨の意見が5件あった。

＜問9で「1 公共交通機関として、このまま存続させるべきである。」とお答えいただいた方にお尋ねします。＞

問10 その理由は何ですか。次の中から1つ選んでください。



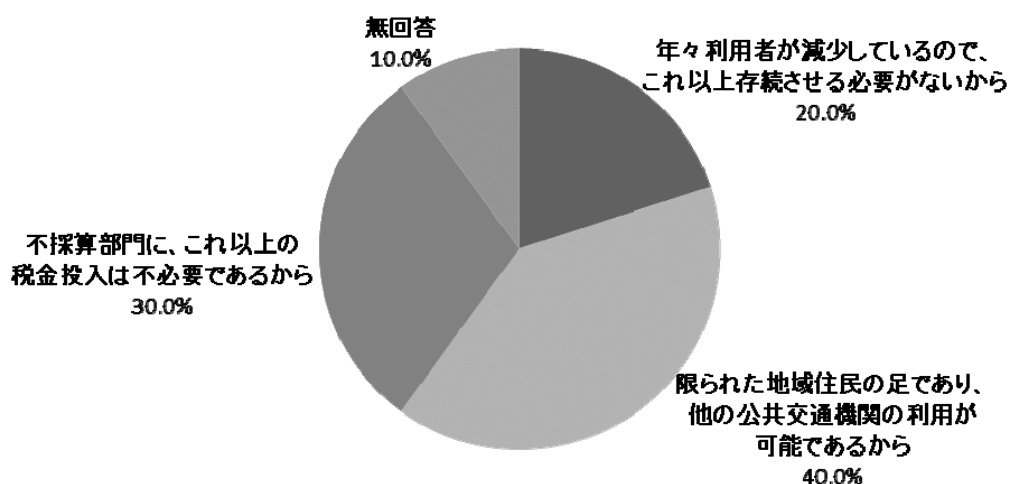
		回答者数	現在でも年間約60万人の利用者がいるから	徒歩、自転車利用者のための足がなくなるから	利用しやすい運賃であるから	その他
全体		83人	34.9%	55.4%	4.8%	4.8%
性別	男性	30人	30.0%	60.0%	3.3%	6.7%
	女性	53人	37.7%	52.8%	5.7%	3.8%
年齢別	20歳代	5人	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%
	30歳代	16人	25.0%	68.8%	0.0%	6.3%
	40歳代	17人	41.2%	52.9%	0.0%	5.9%
	50歳代	12人	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	60歳代	18人	33.3%	61.1%	0.0%	5.6%
	70歳以上	15人	46.7%	26.7%	20.0%	6.7%
区別	門司区	4人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	10人	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	5人	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%
	若松区	15人	40.0%	53.3%	6.7%	0.0%
	八幡東区	13人	53.8%	38.5%	0.0%	7.7%
	八幡西区	29人	20.7%	62.1%	6.9%	10.3%
	戸畑区	7人	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%

「徒歩、自転車利用者のための足がなくなるから」と答えた方が 55.4%、「現在でも年間約60万人の利用者がいるから」と答えた方が 34.9%となっている。

「利用しやすい運賃であるから」と答えた方は 4.8%しかいなかった。

＜問9で「2 他の公共交通機関の利用が可能なので、必要ない。」とお答えいただいた方にお尋ねします。＞

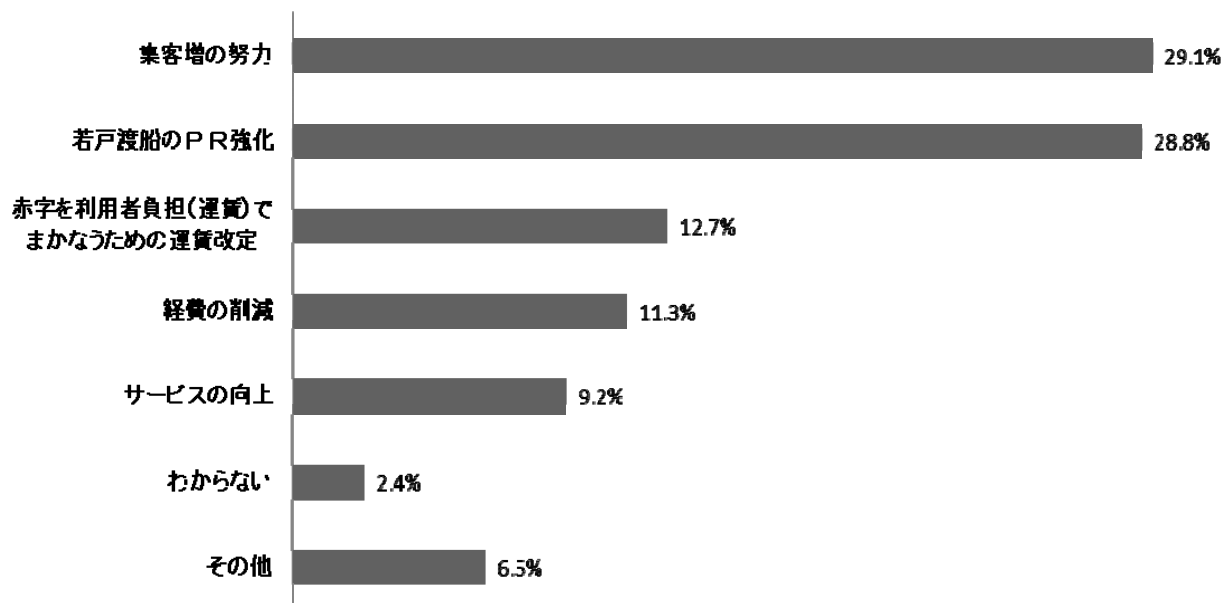
問11 その理由は何ですか。次の中から1つ選んでください。



		回答者数	年々利用者が減少しているため、これ以上存続させる必要がないから	限られた地域住民の足であり、他の公共交通機関の利用が可能であるから	不採算部門に、これ以上の税金投入は不必要であるから	その他	無回答
全体		10人	20.0%	40.0%	30.0%	0.0%	10.0%
性別	男性	5人	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%
	女性	5人	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	1人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	2人	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	50歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	4人	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	2人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	2人	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	小倉北区	2人	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	2人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	3人	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%
	戸畑区	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「限られた地域住民の足であり、他の公共交通機関の利用が可能であるから」が40.0%、「不採算部門に、これ以上の税金投入は不必要であるから」が30.0%、「年々利用者が減少しているため、これ以上存続させる必要がないから」が20.0%となっている。

問 1 2 若戸渡船の経営を改善するために何が必要でしょうか。
次の中からいくつでも選んでください。



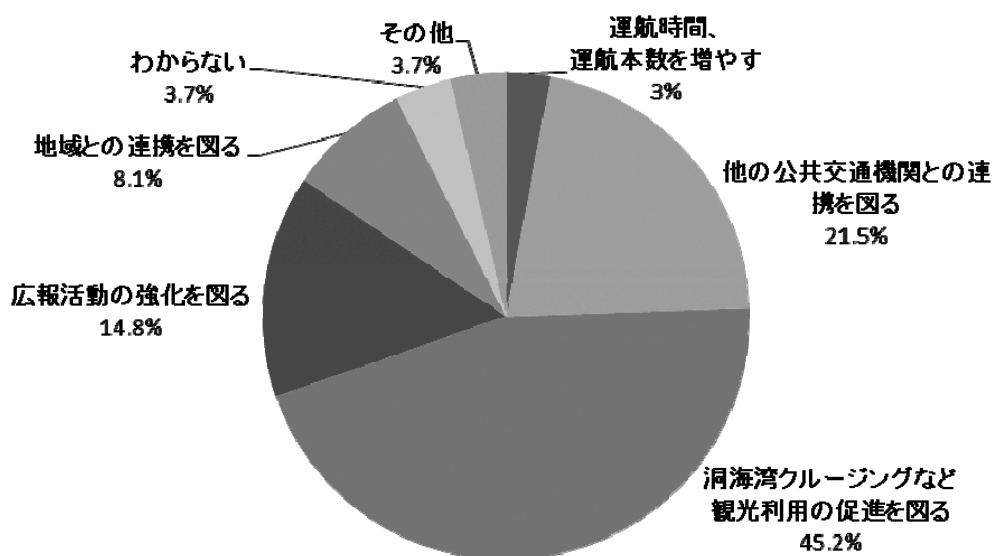
		回答者数	乗客増の努力	若戸渡船のPR強化	赤字を利用者負担(運賃)でまかなうための運賃改定	経費の削減	サービスの向上	わからない	その他
全体		292 人	29.1%	28.8%	12.7%	11.3%	9.2%	2.4%	6.5%
性別	男性	95 人	22.1%	25.3%	17.9%	12.6%	7.4%	3.2%	11.6%
	女性	197 人	32.5%	30.5%	10.2%	10.7%	10.2%	2.0%	4.1%
年齢別	20歳代	15 人	26.7%	33.3%	13.3%	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%
	30歳代	65 人	32.3%	30.8%	4.6%	12.3%	10.8%	4.6%	4.6%
	40歳代	58 人	27.6%	29.3%	12.1%	12.1%	8.6%	1.7%	8.6%
	50歳代	49 人	30.6%	28.6%	10.2%	10.2%	14.3%	0.0%	6.1%
	60歳代	71 人	28.2%	26.8%	16.9%	12.7%	8.5%	2.8%	4.2%
	70歳以上	34 人	26.5%	26.5%	23.5%	8.8%	2.9%	0.0%	11.8%
区別	門司区	21 人	38.1%	33.3%	4.8%	9.5%	14.3%	0.0%	0.0%
	小倉北区	31 人	25.8%	29.0%	16.1%	12.9%	0.0%	6.5%	9.7%
	小倉南区	44 人	31.8%	25.0%	6.8%	11.4%	11.4%	9.1%	4.5%
	若松区	32 人	31.3%	31.3%	18.8%	6.3%	9.4%	0.0%	3.1%
	八幡東区	43 人	25.6%	27.9%	11.6%	11.6%	16.3%	0.0%	7.0%
	八幡西区	106 人	27.4%	29.2%	13.2%	14.2%	8.5%	0.9%	6.6%
	戸畑区	15 人	33.3%	26.7%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%

「集客増の努力」が29.1%、「若戸渡船のPR強化」が28.8%と、約3割の方がこの2項目を選択した。続いて、「赤字を利用者負担（運賃）でまかなうための運賃改定」が12.7%、「経費の削減」が11.3%、「サービスの向上」が9.2%であった。

「その他」としては、次のようなものがあった。

- ・ 「産業観光」、「歴史遺産観光」など観光利用を促進すべきである。
市全体の観光事業拡大の一環に組み込んだら良いのではないか。
- ・ クルージングイベント等の企画を実施すべきだ。
- ・ 多角的な経営を行い、損失を他の事業で賄うべきだ。
- ・ スポンサーを募ってはどうか。
- ・ 運航回数を減らしてはどうか。
- ・ 若松駅、戸畑駅から距離があるので、駅から渡し場までの利便性の向上（レンタサイクルの設置など）を図ってはどうか。
- ・ 年々利用者が減ることは不可避であると思われるので、橋を歩行可とし、徐々に渡船から橋歩行へと移行を考えるべきだ。
- ・ 経営状態の数値と利用者の分析を具体的に行い考えるべきである。

問13 今後、若戸渡船の集客を図るうえで何が必要と考えますか。
次の中から1つ選んでください。



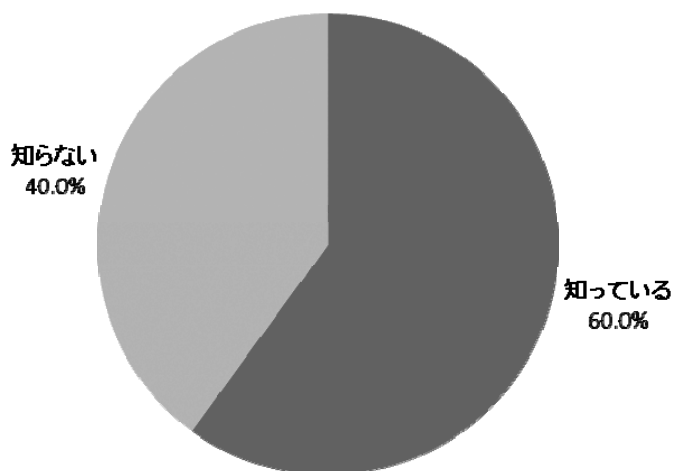
		回答者数	運航時間、 運航本数を 増やす	他の公共交 通機関との 連携を図る	洞海湾ク ルージング など観光利 用の促進を 図る	広報活動の 強化を図る	地域との連 携を図る	わからない	その他
全体		135人	3.0%	21.5%	45.2%	14.8%	8.1%	3.7%	3.7%
性別	男性	44人	2.3%	27.3%	31.8%	13.6%	9.1%	6.8%	9.1%
	女性	91人	3.3%	18.7%	51.6%	15.4%	7.7%	2.2%	1.1%
年齢別	20歳代	7人	0.0%	28.6%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%
	30歳代	34人	5.9%	14.7%	41.2%	20.6%	14.7%	2.9%	0.0%
	40歳代	26人	0.0%	34.6%	38.5%	11.5%	3.8%	3.8%	7.7%
	50歳代	19人	5.3%	10.5%	63.2%	15.8%	5.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	3.3%	6.7%	10.0%
	70歳以上	19人	5.3%	26.3%	57.9%	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%
区別	門司区	9人	0.0%	22.2%	55.6%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	17人	11.8%	29.4%	41.2%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	20人	5.0%	10.0%	45.0%	15.0%	5.0%	15.0%	5.0%
	若松区	18人	0.0%	44.4%	33.3%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%
	八幡東区	16人	0.0%	25.0%	37.5%	12.5%	18.8%	0.0%	6.3%
	八幡西区	46人	2.2%	15.2%	52.2%	15.2%	8.7%	4.3%	2.2%
	戸畑区	9人	0.0%	11.1%	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%	22.2%

「洞海湾クルージングなど観光利用の促進を図る」と答えた方が45.2%と最も多かった。続いて、「他の公共交通機関との連携を図る」が21.5%、「広報活動の強化を図る」が14.8%、「地域との連携を図る」が8.1%となっているが、「運航時間、運航本数を増やす」と答えた方は3.0%しかいなかった。

「その他」としては、次のようなものがあった。

- ・ このようなことも受託業者が行うべきことで、市は委託業者に甘過ぎると思う。
- ・ 「他の公共交通機関との連携」を含む利便性の向上が重要と考える。
- ・ 経営に見合うサービスに縮小して行く計画を立てるべきである。
- ・ 渡場周辺のカフェや雑貨店などと連携して、サービスチケットなどの企画を実施してはどうか。(ポイント制、割引クーポン等)

問 1 4 市では若戸渡船のほかに、藍島・馬島～小倉間の小倉航路を運航していることはご存知ですか。



		回答者数	知っている	知らない
全体		135 人	60.0%	40.0%
性別	男性	44 人	81.8%	18.2%
	女性	91 人	49.5%	50.5%
年齢別	20歳代	7 人	28.6%	71.4%
	30歳代	34 人	20.6%	79.4%
	40歳代	26 人	61.5%	38.5%
	50歳代	19 人	78.9%	21.1%
	60歳代	30 人	86.7%	13.3%
	70歳以上	19 人	78.9%	21.1%
区別	門司区	9 人	55.6%	44.4%
	小倉北区	17 人	76.5%	23.5%
	小倉南区	20 人	35.0%	65.0%
	若松区	18 人	66.7%	33.3%
	八幡東区	16 人	56.3%	43.8%
	八幡西区	46 人	63.0%	37.0%
	戸畑区	9 人	66.7%	33.3%

「知っている」と答えた方は、60.0%であった。

性別では、「男性」が81.8%の方が「知っている」と答えたのに対し、「女性」は49.5%と大きな差があった。また、年齢別では、20歳代、30歳代の若い層の認知度が低い。

問15 若戸渡船に対するご意見・ご要望があればご記入ください。

75件のご意見・ご要望をいただきました。主なものは、次のとおりです。

- ・ もっと若戸渡船の名前やクルージングをしていることをPRすべきである。公共交通機関としてだけでなく、観光施設としてもPRすべきである。
- ・ 門司港レトロ地区等も組合せて観光ルートとして利用してはどうか。
- ・ 若戸渡船の利便性をもっとPRすべきである。
- ・ 若戸渡船は、若松区民の足であり、若松で生まれ育った私たちにとって思い出深いものである。乗客の減少だけで存続を議論するのではなく、歴史的な部分や観光資源としての視点からも遺して欲しいと思う。
- ・ 地域に根ざした市民の足であり、お年寄りや学生、自転車、徒歩の方にとっては重要な交通手段である。皆が車を運転できるわけではないし、経営不振としても市民が困らない日常でなくてはならない。市民の方が喜んで利用してくれている限りは存続するべきだと思う。
- ・ 経営が赤字になったので廃止するとか値上げするのではなく、市の財政で支えることが行政の役割と思う。
- ・ 運航回数を減らしてでも、観光利用かつ地域の交通弱者のための足として残して欲しい。
- ・ 経営が厳しいのであれば廃止しても良いと思う。(コストを下げても安全面が損なわれるようなことがあればそちらの方が困る…等の理由から)
- ・ 若戸大橋や若戸トンネルが併設されており、代替手段は確保されているので期限を切って廃止すべきである。赤字を補填するために多額の税金が投入されるほどの必要性はないと思う。廃止する場合は、利用者には代替の交通手段を与えて、金銭的に差額負担をかけない様に配慮すべきだ。
- ・ 若戸トンネルを作る際に、関門トンネルのように人道を備えるべきだったと思う。
若戸大橋上に、横風と排気ガスを防ぐ人道を設置し、渡船からの移行を図ることが良いのではないか。
- ・ 現在利用している方々のアンケートを丹念にとって、若戸渡船の利用者から必要性の有無を探るべきだと思う。
- ・ 利用者は、渡船だけの利用ではなく他の公共交通機関も利用していると思うので、トータルでコストがどうなるか、乗り継ぎがどうなるかを考慮して、考えて行くべきであると思う。
- ・ 観光やビジネスの面で「若松」の魅力を高めることも必要ではないか。そうすれば渡船の利用も自然に拡大するのではないか。
- ・ 観光目的で乗船する人のため、駐車場の設置を希望する。
- ・ 運賃は安く、便数は多いと感じるが、最終便の時間は早過ぎると思う。
- ・ 利用者に理解を求め、運賃改定などで収支を向上しなければいけないと思う。
また、運賃以外での財源の確保についても検討すべきである。

IV 全体考察

北九州市では、若松～戸畑間を結ぶ若戸渡船と、藍島・馬島～小倉間を結ぶ離島航路である小倉航路の2航路を運営している。

しかし、両航路とも、利用者の減少傾向と船舶燃料費などのコスト上昇により、厳しい経営状況にあり、市の一般会計からの繰り入れで維持しているところである。

特に、若戸航路は、平成16年度では104万人の利用者数であったのが、年々減少し続け、平成25年度では、60万人を割り込む状況となっている。

このアンケートは、今後の若戸渡船の運営のあり方について検討する際の参考とするために実施したものである。

【若戸渡船の認知度】

若戸渡船の認知度は、89.6%であり、非常に高い認知度を示している。

【若戸渡船の利用状況】

「利用したことがある」と答えた方は、63.7%であった。

若松区、戸畑区の利用度が特に高くなっているように、若戸渡船が地域に根付いた市民の足となっていることがうかがえる。

【若戸渡船の利用頻度】

若戸渡船を「利用したことがある」と答えた方のうち、「定期的にはではないが、利用したことがある」と答えた方が64.0%と、不定期、一時的な利用の方が大きな割合を占めている。

年齢別では、60歳代、70歳以上の層で、「現在も必要があるときは利用している」と答えた方が多くなっており、高齢者の日常の足となっていることがうかがえる。

今回のアンケートでは対象者となっていないが、若戸渡船では児童、生徒の通学利用も多く、交通弱者と呼ばれる市民にとっては重要な公共交通機関であると思われる。

一方、「以前は定期的に利用していたが、現在は他の交通機関を利用している」と答えた方は、12.8%（11人）であった。この11人に変更の理由を尋ねたところ、「通勤、通学等の場所」または「居住場所」が変わったからと答えた方が合わせて5人、若戸大橋の渋滞が緩和されたので、「自家用車」または「バス」を利用しているからと答えた方が合わせて5人であった。

したがって、5.8%（5人）の方が、若戸トンネルの開通により、若戸大橋の渋滞が緩和されたので若戸渡船から自家用車またはバスに利用する交通機関を変更したと考えられる。

【洞海湾クルージングの認知度・利用状況】

「知らない」と答えた方が60.7%であり、まだまだ浸透していない。

年齢別では30歳代、区別では門司区、小倉北区、小倉南区で認知度が低く、若戸渡船の利用度の低い年齢層、地域で認知度が低い。

利用状況についても、「乗船したことはない」と答えた方が91.9%と大半を占めており、特に、門司区、小倉北区、小倉南区では、乗船したことがあると答えた方はいなかった。

【若戸渡船の経営状況（収支）への関心】

「とても関心がある」、「少し関心がある」を合わせて関心があると答えた方が、54.8%となっている。認知度、利用度に比べ、経営状況への関心は低い。

「あまり関心がない」、「全く関心がない」を合わせて関心がないと答えた方は、利用度が高いにもかかわらず若松区で50.0%と最も高くなっており、経営状況に係わらず存続することが当然だと考えている方が多いと思われる。

【若戸渡船の役割と必要性】

「市民の足である」と答えた方が31.9%であるのに対し、「限られた地域住民の足である」と答えた方が59.3%と2倍近くとなっている。

一方、必要性について尋ねたところ、「公共交通機関として、このまま存続させるべきである」と答えた方が61.5%と最も多く、「他の公共交通機関の利用が可能なので、必要がない」と答えた方は7.4%しかなかった。

存続させるべき理由については、「徒歩、自転車利用者のための足がなくなるから」と答えた方が55.4%、「現在でも年間約60万人の利用者がいるから」と答えた方が34.9%となっており、若戸大橋、若戸トンネルは歩行者、自転車が通行できないこと、また、地域に根付いた公共交通機関として利用する方が多数いるため、若戸渡船が必要であると答えた方が多かった。

必要ないと答えた理由については、「限られた地域住民の足であり、他の公共交通機関の利用が可能であるから」が40.0%、「不採算部門に、これ以上の税金投入は不必要であるから」が30.0%、「年々利用者が減少しているので、これ以上存続させる必要がないから」が20.0%となっている。

【若戸渡船の経営改善、乗客増のために必要なこと】

経営改善のために必要なこととしては、「集客増の努力」が29.1%、「若戸渡船のPR強化」が28.8%と、約3割の方がこの2項目を選択した。続いて、「赤字を利用者負担（運賃）でまかなうための運賃改定」が12.7%、「経費の削減」が11.3%、「サービスの向上」が9.2%であった。「その他」の意見としては、近隣で実施されるイベントとの連携、洞海湾クルージング等の観光利用により収益を上げるべきという趣旨の意見が多かった。

今後、集客を図るために必要なことを一つ挙げてくださいと尋ねたところ、「洞海湾クルージングなど観光利用の促進を図る」と答えた方が45.2%と最も多かった。続いて、「他の公共交通機関との連携を図る」が21.5%、「広報活動の強化を図る」が14.8%、「地域との連携を図る」が8.1%となっているが、「運航時間、運航本数を増やす」と答えた方は3.0%しかいなかった。

【藍島・馬島～小倉間の小倉航路の認知度】

「知っている」と答えた方は、60.0%であった。

性別では、「男性」が81.8%の方が「知っている」と答えたのに対し、「女性」は49.5%と大きな差があった。また、年齢別では、20歳代、30歳代の若い層の認知度が低かった。

【まとめ】

若戸渡船の認知度は非常に高く（89.6%）、利用度も高いもの（63.7%）となっている。

しかし、市政モニターの皆様の利用状況（利用頻度）を見ると、不定期に、スポット的に利用される方が多く、定期的に利用している方は少ない。一部の地域の人にとっては大切な交通手段であるが、その他の多くの人にとってはそうではないと受け取られているようである。

一方、存続すべきか、廃止すべきかと尋ねると、このまま存続させるべきであると答えた方が多数（61.5%）を占め、廃止すべきであると答えた方は少数（7.4%）であった。児童・生徒、高齢者、自家用車を持たない（乗れない）方にとっては、大切な日常生活の足であり、また、若戸大橋、若戸トンネルは歩行者、自転車が行き通れないため、若戸渡船が必要であると考えている方が多かった。

経営状況（収支）に関する関心度は、利用度の高さに比例せず、頻繁に利用する方にとっては経営状況に係わらず存続することが当然と考えているようであった。

若戸渡船の経営改善のためには何が必要かと尋ねたところ、「集客増の努力」、「若戸渡船のPR強化」を挙げる方が最も多かった。

また、今後の集客増のために必要なことを尋ねたところ、「洞海湾クルージングなど観光利用の促進を図る」と答えた方が最も多く、続いて、「他の公共交通機関との連携を図る」、「広報活動の強化を図る」であった。

以上のように、若戸渡船は、地域に根付いた大切な日常の足であり、歩行者や自転車利用者にとっては重要な交通機関であることから、存続を求める声が多い。北九州市民にとって、特に若松で育った方にとっては、故郷の懐かしい風景であるため遺して欲しいという声が多くあげられた。

また、存続のためには、広報、PR強化に努め、洞海湾クルージング等の観光利用を促進すべきという声が多かった。今後は、現在も好評である工場夜景鑑賞クルージングに加え、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産群」の一つとして登録される可能性がある「官営八幡製鐵所旧本事務所」を初めとする産業遺産を望むクルージングなどを積極的に実施していきたい。

一方で、経営改善のための取組は必須である。若戸大橋、若戸トンネルの無料化も検討されていることから、今後の若戸渡船のあり方については、慎重に検討を進める必要があると思われる。

【市政モニターに関すること】

市民文化スポーツ局 市民部 広聴課（TEL：093-582-2527）

【アンケートに関すること】

産業経済局 観光にぎわい部 渡船事業所（TEL：093-861-0961）